

## 1 目的

いすみ市は、房総半島南部に位置し、温暖な気候と肥沃な耕地に恵まれ四季折々の農作物が豊かに実る田園都市です。特に「いすみ米」や「なし」の産地として有名です。しかし、現在都市への人口集中による「人口減少」「雇用の減少」が見られ、これにより耕作放棄地が見られるようになりました。いすみ市は、これを喫緊の課題として捉え、4つの基本目標として、雇用の創出、地域所得の向上、人口減対策、地域の魅力向上、を掲げ取り組んでいます。

そこで、本校園芸系列としてこうした問題について「いすみ市に何か協力できないか」と考え、この解決に向けた一つの取り組みとして、千葉県夷隅農業事務所と連携し「いすみの山で仕事づくり～枝物栽培～」とした、いすみ市内中山間地域における枝物栽培事業を計画しました。

現在、都心部では花束やアレンジメントに「枝物」を加えたものが、新たなトレンドになりつつあります。栽培日数を要する「枝物」が高値で流通しているのです。

そのため、いすみ市に多数点在する耕作放棄地を有効的に活用し、「枝物」を生産することが出来れば、以下のようなのではないかと考えました。

耕作放棄地対策、空いている農地の有効活用

既存の農業者以外の新たな人材の発掘・育成

新たな枝物・草花の産地づくりといった地域の抱える課題解決の一助

本校園芸系列生徒の地域に根ざした人材の育成

このことから、園芸系列生徒の活動として、大原高校農業実習場内に現在人気の出てきた「コバノズイナ」、「アメリカリョウブ」の母体樹を植え栽培管理を行うこととしました。

「コバノズイナ」は、アメリカ東部原産のズイナ科ズイナ属の落葉低木樹で、5～6月に枝先に白い花を穂状に咲かせます。また、秋には葉が濃い赤色に紅葉します。和風や洋風の庭にも合うので魅力的な樹木です。



コバノズイナ

「アメリカリョウブ」は、アメリカ東部原産のヨウブ科リョウブ属の落葉低木樹で、花期は6月中旬から7月で穂状の白やピンクの花を咲かせます。夏に咲くことから近年人気があり流通量も増えてきているようです。庭木としては洋風の庭園に合うかもしれません。



アメリカリョウブ

この2種類を植え付けから栽培管理まで実施して行きます。

この母体樹から「さし木」、「株分け」をし、参加・協力していただける方に提供し、耕作放棄地等に定植していただく形で取り組むこととしました。

## 2 成果

### (1) 園芸系列生徒、地域の方々を対象とした講習会の実施

いすみ農業事務所の協力で枝物講座参加希望者の募集をしたところ約40名の応募がありました。

第一回講習会 「花き商材としての枝物・草花について」

「枝物・草花の栽培とその経営的側面について」

講師 いすみ農業事務所 伊東様 松野様 令和3年5月 実施

生徒の参加見送り

第2回講習会 「これからの枝物・草花のトレンドについて」

講師 いすみ農業事務所 伊東様 松野様 令和3年7月 実施

生徒の参加見送り

第3回講習会 「母体樹2品種の定植」令和3年11月2日

本校農業実習場にて実施

生徒の参加見送り



定植場所の準備及び土壌調査の様子



講習会

母体樹の講習会は現在3回実施されました。本校生徒も土壌調査などの下準備を行いました。土壌調査を実施した結果、本校の土壌は千葉県夷隅農業事務所の調査方法である「夷農30式透水性試験」の結果、透水性もよく栽培に適している状態でした。

講習会は、新型コロナウイルス感染症予防対策のため、外部講師による校内での講習会の実施や生徒の参加が見送られ、この取り組みが計画どおり実施することが出来ませんでした。

しかし、樹木移植のための下準備を実施し、また樹木の特性を調べたところ、栽培管理は両樹木とも比較的簡単で病害虫もあまりないことや、低木なので今後も管理しやすい樹木であることが分かりました。

透水性試験の学習や土壌改良・選定方法・繁殖方法など樹木の管理技術の知識は、生徒の学習

活動にもつながり地域との連携を重ねていくことで、地域と共に生きる学習として生徒への将来展望にもつながっていくことと考えられます。

### 3 準備・実施段階の工夫

#### (1) 安全への取り組み ~VRを利用した研修~

野菜・果樹・草花、そして今回の樹木を取り扱う場合必ず農業機械を扱うこととなります。本校では、実習での授業が多いため常に安全を心がけ学習に望んでいます。そこで、千葉県農業大学校と千葉県農業者総合支援センターとの連携事業で「VRでの農作業安全教室」を実施し、農業機械の事故をVRで体験しました。VRは「刈り払い機」「トラクター」などの事故について体験でき、今後実習で事故やケガについて防止すべき所が確認できました。

#### (2) 心の癒しを学ぶ ~フラワーアレンジメント~

フラワーデザインの授業では、アレンジメントの学習を実施しています。アレンジメントは人の心を癒す効果があります。美のデザインを学び、人の心を癒す効果を探求しています。今後、枝物(樹木)を利用したフラワーアレンジメントの学習にも取り組んでいきます。



フラワーアレンジメント授業風景

#### (3) 地域への関心へ向けて

~NPO法人千葉自然学校

「令和3年度中山間ふるさと活性化

チャレンジ事業」への応募及び参加~

NPO法人が千葉県からの委託を受け実施している事業であり、次代を担う高校生が、農業という切り口から地域(中山間地域)の課題と可能性に触れる機会として、また若者の視点で生徒自身に関わることで、「地域を変えられる可能性がある・できることがある」ということを実感させたいとの思いから応募することとしました。現在は来年2月のスタディーツアーに向けて計画の最中ではありますが、実際に地域が抱える課題についてその場所へ足を運び、目にすることによって生徒の意識に変化が生まれることに期待しています。



#### (4) 知識・技術の向上 ワンランク上へ

いすみ市 Broom 香房 東山さんを講師とした「枝物利用について」

「枝物」をフラワーアレンジメントに加える作品を手掛けているフローリストを講師としてお招きし、科目「フラワーデザイン」の授業内で利用方法についての講義をしていただくことを計画中です。

実際の利用方法とどのような場面で活用されているかを体験しながら学ぶことで、「枝物」に対する理解と栽培意欲の向上を図りたいと考えています。



#### 4 広報・報道実績

- ・令和3年 6月 日本農業新聞  
千葉日報  
VRでの安全研修
- ・令和3年11月 いすみ市ホームページ  
ふるさと納税  
シクラメンを提供



シクラメン栽培

今後の活動も積極的に発信していきます。

(第3種郵便物認可)



VR映像で農作業事故を疑似体験する生徒  
(千葉県いすみ市で)

# 農作業事故防ぼう

## 千葉県立大原高

千葉県立大原高校は5月中旬、いすみ市内の農業実習場で、仮想現実(VR)ゴーグルを付けて農作業事故を疑似体験する授業を行った。JA共済連開発の「農作業事故体験VR」を使った授業で、県内の高校で初。同校の園芸系列を専攻する2年生25人が、農機使用者の視点で事故の映像を見ることが、「人・環境・物」の事故要因について学んだ。県農業者総合支援センターの鈴木善喜さんが講師を務めた。VRは、現実に近い感覚が得られる映像などのこと。

同校の生徒は、2年生は「あらかじめ農作業事に進級すると4系列のうちから一つを専攻する。園芸系列の2年生は農業を学び始めたばかりで、これから農機を使う機会があるため、今回のVR体験をすることになった。同校の太田代祐基教諭

は「あらかじめ農作業事に進級すると4系列のうちから一つを専攻する。園芸系列の2年生は農業を学び始めたばかりで、これから農機を使う機会があるため、今回のVR体験をすることになった。同校の太田代祐基教諭

## VR使いい疑似体験

は思わず息をのみ、声を上げた。体験後、鈴木さんが事故を防ぐためのポイントを講義すると、真剣な面持ちで耳を傾けた。米倉亜海さん(16)は「自分が農機を使っている感覚になりハラハラしたが、今後、実際に農機を使う上で良い勉強になった。身内も農機を使っているの、今日の体験を伝えて事故を防ぎたい」と気を引き締めた。鈴木さんは「農業で安全を考えることはとても重要。命を守るためにも、農機を使うときは授業を思い出し、細心の注意を払ってほしい」と呼び掛けた。

(千葉・いすみ)

## 5 取組への反響と成果

園芸系列では、野菜・果樹・草花を育てながら農業や園芸に関する知識と技術、植物や自然などの環境について幅広く学習しています。座学で得た知識をすぐに実践し、体験的な学習をとおして知識・技術を磨いていきます。また、体験学習として、いすみ市の施設に花壇の植栽やふるさと納税にシクラメンを提供し、近隣小学校や中学校に生徒が小・中学生に草花の植え付けや野菜の栽培方法等について直接教えています。この取り組みについて、多くの皆様方から感謝の言葉をいただいています。この体験学習は、生徒を大きく成長させています。

### 〔生徒の声〕

- ・園芸系列は自分がやりたいことや進路についてもやりたいことが早く見つけられることができます。体を動かすことが好きなので、実体験を通して学べる園芸系列はいつも楽しく取り組むことができます。
- ・専門的なことが学べる学校で、就職に役立つ。
- ・進学を考えていて、専門知識を増やし学んでいきたい。体験できることは非常にいいです。
- ・いろいろな体験ができるので就職に役立ち、楽しい授業。

### 〔保護者の声〕

- ・仲間の大切さ、人を思いやる心社会へ出ても大事なことだと思います。この学習でいろんなことを学び考え、自分の意見を恥ずかしく言えるようになってもらいたい。
- ・穏やかな環境で、楽しく学校生活を送れていると思います。選べる進路と体験的な学習をとおして子供たちの決断力が養える環境があると思います。

## 6 今後の方向性

いすみの農業を活性化させるために～枝物栽培をとおして～

### (1) 計画

#### 【令和3年度】

- 1月15日(月) 夷隅農業事務所による出前授業「枝物・草花栽培講座(第1回)」
- 2月 夷隅農業事務所による出前授業「枝物・草花栽培講座(第2回)」

#### 【令和4年度】

- 5月 夷隅農業事務所による出前授業「枝物・草花栽培講座(第3回)」  
地域の方々との交流
- 10月 夷隅農業事務所による出前授業「枝物・草花栽培講座(第4回)」  
地域の方々との交流

校内の枝物栽培を生徒が主体的に行えるような体制を構築し、生徒に枝物栽培管理方法や技術が浸透すれば、開放講座を開講し地域の方々への伝達を生徒自らが行うことができます。そうすることで、日々の学習の成果を発揮する場の確保と知識技術の定着、学習意欲の向上につなげていくとともに、地域の農業発展のために貢献できます。

いすみ市は、住みたい場所としても有名で移住してくる人が多くなっていますが、地域の子供たちを地域で活躍できる場をつくる取り組みを今後も模索し、学校として地域に根ざした子供たちの育成を目指し取り組んでいきます。

## 地域活性化を目指して ～園芸系列での取り組み～

### 1 大原高校 園芸系列

本校は、いすみ市に本校舎を置き、旧岬高校があった岬町に農業実習場、旧勝浦若潮高校があった勝浦市に海洋実習場を構える総合学科の高校である。両実習場にはそれぞれ園芸系列と海洋科学系列を選択した生徒が学び、本校舎では生活福祉系列、普通系列を選択した生徒が学び、各系列様々な特色ある取り組みを行っています。

園芸系列では「野菜・草花・果樹」といった3つの専攻を設け、生徒たちが自らの将来を見据えた学びの幅をもたせています。



農業実習場 風景

野菜専攻では、露地栽培とハウス栽培を行い、季節に応じた野菜を栽培しています。野菜の栽培から販売まで計画を立て学習しています。

草花専攻では、草花の栽培に関して学習しています。また、学校設定科目として科目「フラワーデザイン」を4単位、時間割に組み込んでおり、自ら栽培した草花を利用した「アレンジメント」や「ブーケ」等の制作について学んでいます。

果樹栽培では、ナシ・カキ栽培を中心に果樹の品質管理、選定方法など一連の流れに沿って学習しています。



野菜実習





草花実習



果樹実習

## 2 いすみ市との連携

いすみ市の外部機関、地域の小中学校、保育所、特別支援学校との連携にも力を入れて活動しています。

近隣の学校児童とサツマイモをはじめとする各種野菜の定植や収穫・調理や草花の定植などの連携事業を年間30回程度実施しています（現在は、新型コロナウイルス感染防止のため回数を減らし内容を確認しながら実施しています）。



近隣施設・  
小学校・  
中学校との  
連携

令和3年度は県やJAなどの農業団体でつくる千葉県農業者総合支援センターと千葉県立農業大学校の協力をいただき、農作業事故防止安全教室においてVR（仮想現実）映像で農作業事故を疑似体験しながら日本国内での農作業事故の現状や防止方法等を学ぶ取り組みも実施しました。こうした取組は千葉日報や日本農業新聞学校ホームページへの掲載等、幅広く紹介されました。

農業を学ぶいすみ市の県立大原高校2年生24人が、仮想現実（VR）映像を活用して農作業中の事故を疑似体験し、危険回避や事故防止への意識を高めた。

## 農作業事故を模擬体験

### いすみ 大原高生、VR映像活用

VRゴーグルを着け、仮想現実映像で農作業中の事故を模擬体験する大原高生  
いすみ市



安全対策講習の一環で農業実習場の教室で開催。映像を360度見ることができ、VRゴーグルを着けた生徒たちは、運転中のトラクターがバランスを崩して

転倒したり、操作を誤りバックした耕運機に挟まれたりした五つの事故を模擬体験。体をのけ反らすなどして事故の怖さを実感していた。

県やJAなどの農業団体でつくる農業者総合支援センターの職員が講師を務め、担い手に高齢者が多く、1人だけの作業や馬力がある機械を使うことなどから、農業は死亡事故の発生率が全産業の中で最も高いと説明。作業中の安全確認の重要性を呼び掛けた。

VRによる安全対策講習は、県農業大学校や各地の農業事務所で行われているが、県内の高校では初めて実施。事故が多いことに驚いた石井由佳さん（17）は「草刈り機は身近にあって使う機会があるかもしれない。学んだことを生かして気をつけたい」と話した。

（令和3年6月21日千葉日報掲載）

今後も校内での学習のみならず地域との連携をより一層深め、日々の学習を発揮させる場の充実と、地域を思い地域の課題を自らの課題として考えられるような生徒の育成に力を入れ、地域活性化を目指し取り組んでいきます。